

NO	意見	町の考え方
1	<p>1. 障がい福祉(37p)について</p> <p>① 説明会で別の方も言うておられましたが、精神障害などでは、親亡き後のケアが今後一層重要になってくると言われております。グループホーム、病院、介護、生活支援、権利擁護(成年後見人制度等)、生活保護行政、支援団体・・・等羅列するのは簡単ですが、どれも誰が誰に対し何を何時何処で何のためにどのように行うかということを考えると簡単ではないものばかりですね。親亡き後のケアを基本計画、実施計画でどのように展開していくのか、本計画案にどのように表現されていますか？</p>	<p>第3編第1章3(1)及び(4)に記載しております。</p> <p>「親亡き後」の問題の根本は親が死亡した後ではなく、親が生きて元気なうちに、その亡き後に備えることができるかということが重要であると捉えています。障がいのある人への支援は、性別や年齢、発達障がいや強度行動障がいなどの障がいの状態、生活の実態などに応じ、個別の支援や特性を踏まえて実施し(生活拠点・福祉サービスの充実、相談支援・財産支援)関係機関と連携を図るものとします。</p>
2	<p>1. 障がい福祉(37p)について</p> <p>② ひきこもりの方など、家庭の中で完結してどこにも繋がっておらず、本人および家庭単位で苦しんでおられる方も相当数いらっしゃるのではないかとされています。もちろんケースバイケースでしょうけれども、いろんな種類や立場の応援団がいたほうがうまくいくことが多いとも聞きます。この件に関する対処は、どのようにお考えで、本計画案の中ではどのように表現されていますか？</p>	<p>第3編第1章2(1)健康的な生活習慣づくりの推進に「引きこもり相談窓口の周知」を記載しております。ひきこもりの方などの支援を行うこととしており、事業としては、専門医による「こころの健康相談」の開催、また、役場職員、民生委員、区長などに「※ゲートキーパー養成講座」を行い、地域で見守る体制づくりなどの取り組みを想定しています。</p> <p>※こころの不調を抱える人や自死に傾く人のサインに気づき、適切な対応を図ることができる人。</p>
3	<p>1. 障がい福祉(37p)について</p> <p>③ ②に関連して、行政は障害者手帳や自立支援(現障害者総合支援法)で障害者を把握することが多いのではないのでしょうか？そこで私見ですが、(ア)障害者手帳の現行の割引などをもっとPRする(山元町障がい者支援ガイドブックについてももっと体裁を工夫しPRする)(イ)障害者手帳に係る本町独自の割引、特典等を創出しPRすることを本格的に行えば、もう少し顕在化するのではないかと考えます。</p>	<p>第3編第1章3(2)に記載しております。</p> <p>障がい者の把握については、手帳所持者になっているのが現状です。</p> <p>(ア)(イ)については、昨年度、山元町障がい者支援ガイドブックを作成しました。皆様の意見等を参考に、見やすく・分かりやすいガイドブックにしていきたいと考えております。</p> <p>窓口設置・HP掲載・各福祉施設に設置依頼しており、より一層、PRに努めていくこととしています。</p> <p>またR1.10月より、障害者医療費助成についても精神1級を対象とするよう制度を拡大しています。</p>
4	<p>1. 障がい福祉(37p)について</p> <p>④ 障がい福祉の目標指標は、就労移行支援事業所の利用者数になっていますが、これは障がい福祉全体から見ると、ほんのほんの少しの部分だと思います。就労以外にも重点項目はあると考えるので、全部は無理でももう少し(+2~3)指標をもっともいいのではないかと思います。</p> <p>なお、指標となっている就労移行支援事業所は町内にはないのではないかと思います。町内に資源を作ることかはお考えいらっしゃいますか？</p>	<p>第3編第1章の目標指標は、就労移行支援事業所の利用者数とし、第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画に目標を設定している一部を掲げています。</p> <p>地域で共に生活できる「共生社会」実現の理念の下、就労等を希望し、知識・能力の向上、実習、職場探し等を通じ、適性に合った職場への就労に力を入れていきたいと考え、指標としました。</p> <p>町内には、就労移行支援事業所はありませんが、他の市町村の事業所を利用している状況であり、協力する民間事業所等があれば、相談に応じ資源確保を推進していきます。</p>
5	<p>2. 防災・減災(58p)について</p> <p>防災・減災に向けた取り組みの推進について(被災時・被災後の避難支援の充実を図ります)</p> <p>さきの台風19号で町内全域に避難指示が出ましたが、犬猫等飼育している世帯は大変多いと思えますが、環境省自然環境局ではペットの災害対策をHP上で公開し、ペットの同行避難を認めています。(応急仮設住宅へのペットの受け入れも被災自治体に特段の配慮を要請しています。)しかし、実際の現場ではペット同行は断られることも多いようです。避難指示が出ましたが、家に居ざるを得ないです。この件について、お考えをお尋ねしたいです。</p>	<p>町では、避難所を開設・運営する際の手引きとして「避難所開設・運営マニュアル」を作成し、その中で、ペットを同行しての避難者を想定し、注意事項等についても触れています。</p> <p>その内容は、避難所の居住スペース部分には、原則としてペットの持ち込みは禁止で、指定された場所で「つなぐ」「ケージに入れる」となっていますが、避難所の中には、ペットとの同行避難に適した環境が整っていない施設があるのも事実です。</p> <p>このことから、実際に避難しようとする避難所において、ペット同行による避難が可能か、また、可能な場合でもその際に注意しなければならない事項などについて、あらかじめ確認を行い、備えていただければと考えています。</p>

NO	意見	町の考え方																																																																																																			
6	<p>3. 地域の定義</p> <p>本計画案には数多くの「地域」という言葉が出てきますが、その意味するところはそれぞれの項目において様々だと思います。我々町民が見たときに、人によって思い浮かべるイメージが異なるものになるのではないかと懸念します。説明会の際、この疑問につき質問しましたが、定義はない、とのこと。全ての言葉に定義を設けることはできませんが、「地域」という言葉は基本的な言葉でかつ広範囲な意味をもつものだと思いますので、基本計画、少なくとも実行計画に落とした段階では、「地域」が何を指すのか明らかにした方がよいと思います。</p> <p>以下、当方のイメージを記しますが、とくに町内に限定するのか近隣市町内外と連携するのにより、実施の方向が随分と変わってくるのではないかと考えます。</p> <p>以下、当方のイメージを記しますが、とくに町内に限定するのか近隣市町内外と連携するのにより、実施の方向が随分と変わってくるのではないかと考えます。</p> <table border="1" data-bbox="226 537 1213 1656"> <thead> <tr> <th>項</th> <th>地域という言葉を使っている場所</th> <th>地域という言葉に対する私のイメージ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>34p(1) 子育て支援センター…地域の子育て</td><td>町内一近隣市町は含みますか？</td></tr> <tr><td>2</td><td>35p(5) 家庭と地域が連携し、地域ぐるみで</td><td>町内の住民団体、グループ一近隣市町は含みますか？</td></tr> <tr><td>3</td><td>35p(6) 地域における声かけ運動</td><td>近隣、学校周辺</td></tr> <tr><td>4</td><td>36p(2) 地域での…地域ぐるみの健康づくり</td><td>対象：町民、支援：町内外団体、実施：町、保健師</td></tr> <tr><td>5</td><td>37p(1) 地域生活支援</td><td>自宅、社会資源、病院、介護施設、支援施設</td></tr> <tr><td>6</td><td>38p(2) 地域密着型</td><td>対象：町民、支援：近所</td></tr> <tr><td>7</td><td>38p(3) 住み慣れた地域で</td><td>自宅を中心とした町内各資源</td></tr> <tr><td>8</td><td>41p(3) 地域産業</td><td>地元一町内に限定していますか？</td></tr> <tr><td>9</td><td>41p(4) 地域食材</td><td>地元一町内に限定していますか？</td></tr> <tr><td>10</td><td>44p(6) 地域産業</td><td>町内（限定？）</td></tr> <tr><td>11</td><td>46p(1) その地域の歴史や自然</td><td>町内外</td></tr> <tr><td>12</td><td>47p(4) 地域の観光団体</td><td>町内外</td></tr> <tr><td>13</td><td>47p(4) 地域協働</td><td>町内外</td></tr> <tr><td>14</td><td>51p(2) 家庭・地域と連携した</td><td>町内学習支援資源一近所等を含みますか？</td></tr> <tr><td>15</td><td>52p(7) 地域と学校を結び</td><td>学習支援資源</td></tr> <tr><td>16</td><td>52p(7) 地域人材の育成</td><td>学習支援資源</td></tr> <tr><td>17</td><td>52p(11) 地域の交流の場</td><td>住民グループ</td></tr> <tr><td>18</td><td>52p(11) 地域との調整</td><td>住民グループ</td></tr> <tr><td>19</td><td>54p(3) 地域に伝わる歴史や伝承</td><td>町内外</td></tr> <tr><td>20</td><td>55p(1) 地域に伝承される郷土技能</td><td>町内外</td></tr> <tr><td>21</td><td>55p(1) 地域の魅力づくり</td><td>町内外</td></tr> <tr><td>22</td><td>55p(2) 地域づくり</td><td>町内外の地理的歴史的に纏まった区域の開発</td></tr> <tr><td>23</td><td>55p(2) 地域の歴史的文化基盤</td><td>町内外</td></tr> <tr><td>24</td><td>56p(1) 地域と一体となって</td><td>スポーツ経験者、父兄、住民グループ</td></tr> <tr><td>25</td><td>58p 「自助」…地域ぐるみで災害</td><td>行政区、自主防災組織、消防団、町民</td></tr> <tr><td>26</td><td>59p(3) 地域と行政が連携</td><td>町民</td></tr> <tr><td>27</td><td>59p(4) 地域人材（防災士、…</td><td>町内</td></tr> <tr><td>28</td><td>60p(1) 家庭・学校・地域が一体となった</td><td>住民団体、PTA、パトロール隊</td></tr> <tr><td>29</td><td>63p(5) 地域住民の利便性の向上</td><td>町内</td></tr> <tr><td>30</td><td>63p(5) 地域の活性化</td><td>町内外</td></tr> <tr><td>31</td><td>73p(1) 地域づくりの担い手</td><td>（地域づくりとまちづくり(2)の違いは何ですか？）</td></tr> <tr><td>32</td><td>73p(2) 地域単位で活動</td><td>行政区、街区等</td></tr> </tbody> </table>	項	地域という言葉を使っている場所	地域という言葉に対する私のイメージ	1	34p(1) 子育て支援センター…地域の子育て	町内一近隣市町は含みますか？	2	35p(5) 家庭と地域が連携し、地域ぐるみで	町内の住民団体、グループ一近隣市町は含みますか？	3	35p(6) 地域における声かけ運動	近隣、学校周辺	4	36p(2) 地域での…地域ぐるみの健康づくり	対象：町民、支援：町内外団体、実施：町、保健師	5	37p(1) 地域生活支援	自宅、社会資源、病院、介護施設、支援施設	6	38p(2) 地域密着型	対象：町民、支援：近所	7	38p(3) 住み慣れた地域で	自宅を中心とした町内各資源	8	41p(3) 地域産業	地元一町内に限定していますか？	9	41p(4) 地域食材	地元一町内に限定していますか？	10	44p(6) 地域産業	町内（限定？）	11	46p(1) その地域の歴史や自然	町内外	12	47p(4) 地域の観光団体	町内外	13	47p(4) 地域協働	町内外	14	51p(2) 家庭・地域と連携した	町内学習支援資源一近所等を含みますか？	15	52p(7) 地域と学校を結び	学習支援資源	16	52p(7) 地域人材の育成	学習支援資源	17	52p(11) 地域の交流の場	住民グループ	18	52p(11) 地域との調整	住民グループ	19	54p(3) 地域に伝わる歴史や伝承	町内外	20	55p(1) 地域に伝承される郷土技能	町内外	21	55p(1) 地域の魅力づくり	町内外	22	55p(2) 地域づくり	町内外の地理的歴史的に纏まった区域の開発	23	55p(2) 地域の歴史的文化基盤	町内外	24	56p(1) 地域と一体となって	スポーツ経験者、父兄、住民グループ	25	58p 「自助」…地域ぐるみで災害	行政区、自主防災組織、消防団、町民	26	59p(3) 地域と行政が連携	町民	27	59p(4) 地域人材（防災士、…	町内	28	60p(1) 家庭・学校・地域が一体となった	住民団体、PTA、パトロール隊	29	63p(5) 地域住民の利便性の向上	町内	30	63p(5) 地域の活性化	町内外	31	73p(1) 地域づくりの担い手	（地域づくりとまちづくり(2)の違いは何ですか？）	32	73p(2) 地域単位で活動	行政区、街区等	<p>本計画において、「地域」と記載した場合、基本的には町内における多様な主体あるいはその複数、周辺環境を指し示すものです。個人や個別企業、一部の地区による取り組みだけではなく、協働・連携などのイメージを共有したいと考えています。そのため、基本構想・基本計画においては、主体や対象を狭義にはせず、実施計画において、各事業等を実施する主体、対象、連携の在り方等を明確化することとしています。</p> <p>なお、本計画の記載内容は、町内に及ぶものですが、近隣市町村との連携が必要とされる施策などは広域的な関連性も地域の定義に含みます。</p> <p>一例としては、「地域産業」については町内に限定するものですので「地元産業」に修正します。また、「地域食材」については、地元・町内資源を生かすため、「町内」に限定することを想定しており、「地元食材」に修正します。</p> <p>「家庭・地域と連携した」基本的生活習慣や学習環境の確立に向けた取り組みについてはお見込みのとおり、ご近所も含むものです。</p> <p>「地域づくり」については、各まちづくり活動の、ある一定の区域内における地域活動の維持・活性化を目指した小さな活動単位を想定しています。</p>
項	地域という言葉を使っている場所	地域という言葉に対する私のイメージ																																																																																																			
1	34p(1) 子育て支援センター…地域の子育て	町内一近隣市町は含みますか？																																																																																																			
2	35p(5) 家庭と地域が連携し、地域ぐるみで	町内の住民団体、グループ一近隣市町は含みますか？																																																																																																			
3	35p(6) 地域における声かけ運動	近隣、学校周辺																																																																																																			
4	36p(2) 地域での…地域ぐるみの健康づくり	対象：町民、支援：町内外団体、実施：町、保健師																																																																																																			
5	37p(1) 地域生活支援	自宅、社会資源、病院、介護施設、支援施設																																																																																																			
6	38p(2) 地域密着型	対象：町民、支援：近所																																																																																																			
7	38p(3) 住み慣れた地域で	自宅を中心とした町内各資源																																																																																																			
8	41p(3) 地域産業	地元一町内に限定していますか？																																																																																																			
9	41p(4) 地域食材	地元一町内に限定していますか？																																																																																																			
10	44p(6) 地域産業	町内（限定？）																																																																																																			
11	46p(1) その地域の歴史や自然	町内外																																																																																																			
12	47p(4) 地域の観光団体	町内外																																																																																																			
13	47p(4) 地域協働	町内外																																																																																																			
14	51p(2) 家庭・地域と連携した	町内学習支援資源一近所等を含みますか？																																																																																																			
15	52p(7) 地域と学校を結び	学習支援資源																																																																																																			
16	52p(7) 地域人材の育成	学習支援資源																																																																																																			
17	52p(11) 地域の交流の場	住民グループ																																																																																																			
18	52p(11) 地域との調整	住民グループ																																																																																																			
19	54p(3) 地域に伝わる歴史や伝承	町内外																																																																																																			
20	55p(1) 地域に伝承される郷土技能	町内外																																																																																																			
21	55p(1) 地域の魅力づくり	町内外																																																																																																			
22	55p(2) 地域づくり	町内外の地理的歴史的に纏まった区域の開発																																																																																																			
23	55p(2) 地域の歴史的文化基盤	町内外																																																																																																			
24	56p(1) 地域と一体となって	スポーツ経験者、父兄、住民グループ																																																																																																			
25	58p 「自助」…地域ぐるみで災害	行政区、自主防災組織、消防団、町民																																																																																																			
26	59p(3) 地域と行政が連携	町民																																																																																																			
27	59p(4) 地域人材（防災士、…	町内																																																																																																			
28	60p(1) 家庭・学校・地域が一体となった	住民団体、PTA、パトロール隊																																																																																																			
29	63p(5) 地域住民の利便性の向上	町内																																																																																																			
30	63p(5) 地域の活性化	町内外																																																																																																			
31	73p(1) 地域づくりの担い手	（地域づくりとまちづくり(2)の違いは何ですか？）																																																																																																			
32	73p(2) 地域単位で活動	行政区、街区等																																																																																																			
7	<p>○第6次計画(案)策定手続きについて</p> <p>・今回の策定に当たり、町民アンケート、各種団体等へのヒアリングが行われたことは、歓迎します。その後、町民への6次計画(案)の説明会・パブコメ募集となっていますが、ここでもう一段階、<u>6次計画(案)策定のための意見聴取の場が設けられてからパブコメへ進んで行った方が望ましかった</u>と考えます。</p> <p>・今回の計画は、山元町運営の今後10年間の基本的な指針として、本町のあらゆる計画や施策の基礎となり、まちの将来像とその実現に向けた施策及び施策の進め方を示すものであるなら、拙速に策定を目指すのではなく、町民それぞれが町の置かれた現状と課題に向き合い計画策定にかかわれるよう<u>今一度、策定スケジュールを見直すことを提案</u>します。</p>	<p>本計画の策定にあたり、平成30年8月から町内全世帯を対象とした住民アンケートを実施しました。また、若者(15～25歳)を対象としたアンケート調査を実施したほか、坂元中学校及び山下中学校全生徒を対象にアンケート調査、各種団体へのヒアリングを行いました。</p> <p>今回の計画策定にあたっては、これらの意向調査を踏まえ、町民の意見等に基づき、各種団体や公募により町民代表者による山元町総合計画審議会での会議を重ね計画(案)を策定したものです。</p>																																																																																																			

NO	意見	町の考え方
8	<p>○第1章-1計画策定の意義について</p> <p>・第5次計画(震災復興計画)期間に、膨大な復旧復興事業に加え、人口減少・少子高齢化、にぎわいづくりに果敢に取り組み、また、町民生活や産業の復興、常磐自動車道全線開通、JR常磐線運転再開といった広域交通条件の整備、全国的なネットワークの形成などの取り組み成果は大いに評価されます。</p> <p>・今計画は、本町のあらゆる計画や施策の基礎となり、まちの将来像とその実現に向けた施策及び施策の進め方を示すものであるならば、大きく変化している山元町を取り巻く社会情勢や経済状況について、一般論でなく現実の問題として現状、課題が明確になるよう記述されることを提案します。</p>	<p>計画策定の意義に記載の事項については、第2章2本町の現状、(2)以降に記載しております。</p> <p>国内の社会情勢から特筆すべき町の現状を抽出して、町の課題として整理しています。</p>
9	<p>○第2章-2総合計画の構成と期間について</p> <p>・総合計画の構成を見れば大項目-中項目-小項目の関係が分かるように整理されることを提案します。</p> <p>例えば、「仙台市の総合計画(2020)」のP4計画の構成のイメージです。</p>	<p>計画の構成と期間については、第1編第1章2に記載のとおりです。併せて第2編基本構想【第6次山元町総合計画基本構想の構成】により将来像や将来人口フレームの関係性をまとめており、目次に追加し、わかりやすい誌面構成にあるように編纂します。</p>
10	<p>○第2章-1国内の社会経済動向について</p> <p>・国内の動向について11項目にわたり丁寧に記載している点は、歓迎します。</p> <p>・一方で、社会経済動向は、全国の各ブロック毎に置かれている状況に大きな違いがあるのも事実です。今計画では、国内動向に止まらず東北ブロック、宮城県レベルまで掘り下げて動向を記述されることを提案します。</p>	<p>国の動向・本町の現状と重複する部分が多く見込まれることから東北ブロック・県レベルの動向についても、それを踏まえた計画になっているものと考えており、記載を省略することとしています。</p>
11	<p>○第2章-2-(1)本町の概要について</p> <p>・「東北の湘南」は、魅力的に響きますが、一方、気候温暖で過ごしやすいと側面だけでは「湘南」の一面のみを表しているにすぎません。そこで、ご参考まで「湘南のイメージ」を記載しておきましたので、もう少し「湘南」に近づけるよう膨らませた記述をされることを提案します。</p> <p>(ご参考)湘南のイメージ</p> <p>現在の湘南は明治時代に多くの人々が憧れた美しい自然はそのままに、多くの観光客を迎え入れる一大スポットとなっています。明治から続く別荘地のイメージも鎌倉や葉山を中心に引き継がれています。一方で、昭和からの開発事業によって、一般の多くの人たちが親しみを抱くエリアとしても進化を遂げました。高級感と憧れを抱かせる魅力ある街のイメージと、誰もが楽しめる風土を両立している点は、全国を探しても湘南以外ではなかなか見当たりません。湘南には、一見相反する要素が同居する街の特徴と同じく、ライフスタイルについても独自の文化があります。都心へ通勤する利便性と、自然を楽しめる環境は、一般的には両立しませんが、湘南エリアは東京方面まで片道1時間前後でアクセスできることから、両方を手に入れることが可能です。</p> <p>(出典)横濱コラム Vol.30【湘南・現代】現在に至るまで、高級住宅地としてのイメージを保つ湘南エリア</p>	<p>本町における「東北の湘南」の表現は、海沿いかつ気候温暖で過ごしやすい側面を表す意図で使用されてきたもので、「湘南」自体を目指す意図はありませんので、ご理解願います。</p> <p>一方で「湘南」ブランドは、ご提案のとおり多くの方々から好印象を抱くものであり、町の魅力向上やイメージアップによる定住人口増加や交流人口拡大を図るうえで、まちづくり全体の参考とすべきモデルになり得ると考えられますのでいただいたご意見を今後の参考にさせていただきます。</p>
12	<p>・「単なる復旧にとどまらない創造的な復興」、「未曾有の震災を乗り越えた中で取り戻した「輝き」、との記述は新鮮でインパクトを与える表現としました。一方でかなり抽象的なので、すべての町民がイメージできるような具体的な中身を記述されることを提案します。</p>	<p>本町の復興の取り組みは町全体の多分野に及ぶため、その方向性・成果を表したものです。具体的な取り組みについては、後述の「近年の主な動向」等に記載しています。</p>
13	<p>・「様々な地域資源」を活用した町づくりは素晴らしいことと考えます。一方で、様々な地域資源という表現にとどまらず、山元町にどのような地域資源があり、町民がどうかかわっていけば良いのか示すことは重要なことと考えますので、地域資源を具体的に記述されることを提案します。</p>	<p>第1編第1章2本町の現状に記載の「様々な地域資源」については、本文中に記載の内容を踏まえたものであり、「上記のような」と追記します。また、町民の方にも認識していただけるよう、本町の位置や地勢に伴う、温暖な気候・風土、恵まれた交通網、豊かな自然や閑静な住環境などの「強み」として記述します。</p> <p>以下は記載しない</p> <p>※記載者の意図を確認する必要がありますが、ここでいう「様々な地域資源」とは、観光交流施設や自然、歴史文化施設のみでなく、町の位置や地勢、気候、交通網、人の気質・絆などを指していると思われ、商観・生学で個別具体の施設(資源)を列記するのではなく、町としての「強み」を列記すべきではないかと思われます。</p> <p>※個別具体的に列記するのであれば、「いちご」「りんご」「ホッキ貝」「シャインマスカット」「やまと夢いちごの郷」「ひまわり祭り」「ふれあい産業祭」「コダナリエ」などに前書きを添えて、「○○や○○など、様々な地域資源～」などと記載します。</p>
14	<p>○(2)人口・世帯等及び(5)-①震災による大幅な人口減少と少子高齢化について</p> <p>・記載内容が重複していますので、(2)に整理されることを提案します。</p>	<p>第2章2本町の現状(2)世帯・人口は国勢調査(～平成27年度)までの状況を示したものであり、依然として人口減少・少子高齢化は続いています。しかし、直近の住民基本台帳をベースにした人口の動向では(5)近年の主な動向①に記載のとおり、社会増の傾向があることからトピックスとして言及しているものです。</p>
15	<p>○(2)人口・世帯等及び(5)-⑥震災後の交流人口の増加について</p> <p>・交流人口が震災前を大きく上回る水準になっていることは喜ばしいことです。一方、交流人口は最近よく使われますが、観光客との違いがイメージし難いと考えていますので、震災前の交流人口を示すとともに交流人口増加の意義を分かり易く記述されることを提案します。</p> <p>(ご参考)交流人口について(出典:総務省H27白書)</p> <p>人口の減少は一般に、地域内の消費活動の縮小につながり、やがて生産活動の停滞にもつながっていく。地域経済を活性化するためには、人口を回復・増加させることが必要であるが、それには一定の期間が必要となるため、地域外からの旅行者や短期滞在者による「交流人口」を増やすことが注目されている。地域の交流人口が増加すれば、宿泊や食事、土産品の購入等が行われ、地域経済に貢献することが期待される。</p> <p>実際、観光庁の推計によると、外国人旅行者10人、国内旅行者(宿泊)26人又は国内旅行者(日帰り)83人の地域での消費額は、定住人口1人当たりの年間消費額(124万円)に匹敵するとされている。</p>	<p>第1編第2章2(5)⑥について、震災前については「交流人口」として捉えておらず、「観光客入込数」として記録(約40,000人)しておりますので文中に示すとともに、交流人口の意義については資料編へ記載することとし、その旨本文へ記載します。</p>

NO	意見	町の考え方
16	<p>○(2)人口・世帯等及び(5)-(7)全国からの支援・つながりについて</p> <p>・自治体職員の派遣をきっかけに新しい「絆」が生まれ、交流事業などへと展開していることは素晴らしいことです。そこで、町民がイメージできるよう新しく生まれた交流事業を例示されることを提案します。</p>	<p>第1編第2章2(5)⑦については、中学生による交流事業や、災害応援協定の締結などを実施しており、本文中に追記します。</p> <p>※宮崎県との中学生交流事業、ふれあい産業祭における自治体出店のほか、角田市・朝来市、埼玉県松伏町、千葉県大網白里市・群馬県中之条町との災害応援協定の締結などがあります。</p>
17	<p>○第3章-1地域の魅力を生かした定住人口確保について</p> <p>・魅力ある居住環境のPRは、重要と考えていますが、一般論にすぎますので「東北の湘南」と称される山元町の魅力ある居住環境をより具体的に記述されることを提案します。</p>	<p>本文中は「震災復興計画の成果と課題」として端的に記載しております。</p>
18	<p>○第3章-4防災力の維持について</p> <p>・「津波ハザードマップ※」の作成や地域の避難施設の周知徹底は重要なことと考えます。津波対策に加えて、今年の台風19号、21号災害は未曾有の大雨をもたらし、今後も温暖化の深刻化とともに台風・大雨による洪水、がけ崩れ、山地災害など甚大な災害に備える必要性を感じております。その対策として、坂元川をはじめとして洪水ハザードマップ、山地区裏山等のがけ崩れや土砂災害ハザードマップ作成(あるいは周知徹底)について記述されることを提案します。</p> <p>・また、これまでの経験則で対応できない洪水、大雨などの災害発生やいわき市の例にあるよう防災無線不備や避難勧告(警戒レベル4)等が書類不備を理由に発令手続が遅れるなど防災体制の不備が災害回避・軽減の支障となる事態も想定されます。これらに的確かつ迅速に対応できる山元町防災体制の整備を提案します。例えば、現行総務課危機管理班を拡充し、災害リスクマネジメント(災害発生前の段階で対策を講じる災害リスクに関し組織を指揮し、管理する調整された活動)とクライシスマネジメント(災害発生後に対応する危機管理)を担う専任の者(河川工学、砂防工学、リスク・クライシスマネジメントに通じた者)を配置するなど防災体制整備を提案します。</p> <p>・さらに、全町避難の際には、受け入れ施設不足が想定されることから民間企業の施設開放など企業と災害時の協定を結ぶなどエリア(区)ごとの避難施設と避難者受入れ可能数を検討などの措置に触れることを提案します。</p> <p>・災害時の避難は、自主的避難が基本となるも独居高齢者等は今般の台風19号、21号の際にも「避難するすべがない、急に食料・水を用意できな」等避難の障害となったと聞いています。警戒レベル3発令と同時に「ぐるりんバス」を活用し高齢者居住地域と指定避難所間にバスを運行し避難を促すなど高齢者避難支援措置の検討を提案します。</p> <p>・避難丘を備えた防災公園などの整備は、評価しますが、一方で東日本大震災クラスの津波でも海に近い避難の丘に避難すれば良いとの誤ったメッセージにならないよう記述を工夫されるよう提案します。</p>	<p>ハザードマップの作成については、基本計画の59頁(3)「自助」「共助」「公助」による対策の充実の2点目に記述しています。</p> <p>なお、洪水及び土砂災害に関するハザードマップは、今年度内の完成を目指し現在作成中ですが、津波ハザードマップは、県が今後実施する津波浸水想定公表を待って作成する予定としています。</p> <p>防災体制に関するご意見については、今後の体制整備の参考とさせていただきます。</p> <p>ハザードマップ作成後は、避難勧告・避難指示を発令するに当たっては、全町避難から避難対象者を特定するような発令内容に見直し、受け入れ不足が生じないように調整して参ります。</p> <p>災害発生時における「ぐるりん号」の運行については、台数が限られているために町内全域での避難所への搬送が難しいこと、及び状況により安全な走行が困難なことなどが想定され、運行は難しいものと考えています。</p> <p>なお、独居高齢者や障がいをお持ちの方などの「避難行動要支援者」にあつては、各行政区の自主防災会の役員や民生委員が許可を得て名簿を共有し、緊急時の避難体制について予め定められていることから、今後も、共助の取り組みの中で避難支援していただけるよう連携して参ります。</p> <p>本計画においては、避難丘整備の目的に関し記述する箇所はございませんが、防災計画の位置づけにおいて、町の避難計画に関し周知して参ります。</p>
19	<p>○第3章-5生活利便性の向上について</p> <p>・道路の拡幅や幹線道路へのアクセス確保等、災害時の避難路や輸送路を考慮した災害に強い道路網の整備は、評価できます。一方、未だ袋小路のエリアもあり、緊急時の迅速な非難に支障がでると想定されますので、袋小路の解消など整備の必要性に触れられることを提案します。</p> <p>・主要な交通結節点として町全体の核となる役場へのアクセスの向上の観点から作田山に貫ける直線道路の整備を提案します。</p> <p>・また、市街地の賑わいを町全体で享受できるコンパクトなまちづくりの推進は必要ですが、それ以前に市街地が寂れ賑わいからほど遠い現状を認識し、いかに賑わい創出していかその方策に触れていただくよう提案します。</p>	<p>第3編第4章4都市整備に記載のとおり、ご意見の「袋小路」については私道が多く、家屋の張り付きや道路幅員等、権利関係も含め、状況が様々であり、何より、整備の必要性について、住民の意識の高揚が必要不可欠となります。各道路整備については、こうした情勢を見極めながら対応を検討して参りたいと考えておりますので、ご理解願います。</p> <p>また、第3編第4章4都市整備に記載のとおり「新市街地」の利便性を享受できるコンパクトなまちづくり、ネットワーク化を進めていくこととしております。</p>
20	<p>○課題1:移住・定住を促す町の魅力創出や生活利便性の向上が必要について</p> <p>・「まちの現状」、「復興計画における課題」、「町民の意向と期待」の内容が整合していないと考えられるので、整合が取れた記述とされるよう提案します。</p> <p>・また、まちの現状をより明確にし、対策の方向性を示すため何故人口減少が起こっているか明記されることを提案します。</p>	<p>第1編第5章に記載のまちづくりの戦略課題については、町がとらえている「町の現状」と、震災復興計画の検証による「成果・課題」、町民意向調査における「町民の意向」と大きく3つに分類したものであり、それぞれの視点での課題認識として、必ずしも整合が図られるものではないと考えております。</p> <p>人口減少の要因については少子高齢化社会の到来等、全国的にみられる傾向は本町においても同様であり、震災によりその傾向に拍車がかかってきたという現状があります。</p> <p>人口減少にあたっては、少子高齢化に加え、一つの方針として定住を促すための取り組みが必要ととらえておりますので、基本計画において各分野の現状と課題を記載しています。</p>
21	<p>○課題2:町民一人ひとりが安心して暮らせる生活環境づくりが必要について</p> <p>・「まちの現状」、「復興計画における課題」、「町民の意向と期待」の内容が整合していないと考えられるので、整合が取れた記述とされるよう提案します。</p>	<p>第1編第5章に記載のまちづくりの戦略課題については、町がとらえている「町の現状」と、震災復興計画の検証による「成果・課題」、町民意向調査における「町民の意向」と大きく3つに分類したものであり、それぞれの視点での課題認識として、必ずしも整合が図られるものではないと考えております。</p>
22	<p>○課題3:町民や地域と連携した協働のまちづくりが必要</p> <p>・「まちの現状」、「復興計画における課題」、「町民の意向と期待」の内容が整合していないと考えられるので、整合が取れた記述とされるよう提案します。</p>	<p>第1編第5章に記載のまちづくりの戦略課題については、町がとらえている「町の現状」と、震災復興計画の検証による「成果・課題」、町民意向調査における「町民の意向」と大きく3つに分類したものであり、それぞれの視点での課題認識として、必ずしも整合が図られるものではないと考えております。</p>
23	<p>○第2編基本構想-第1章 まちづくりの基本理念について</p> <p>・単なる復旧にとどまらない、「創造的な復興」は、抽象的なのでイメージできるよう具体的に記述されることを提案します。</p> <p>・今後は継続して「心の復興」にも取り組みとしていますが、この言葉はよく使われますが抽象的過ぎてわかりません。復興庁の「心の復興」事業の目的にある「東日本大震災に伴う避難生活の長期化や、災害公営住宅等への移転など、被災者を取り巻く生活環境が変化する中で、被災者が、人と人とのつながりをつくり、生きがいを持って生活できる」状況を指すのでしょうか？町民が分かり易いよう「心の復興」の意味合いを記載するよう提案します。</p>	<p>震災前の状況に復旧するだけでなく、人口減少・少子高齢化、にぎわいづくりなどの震災前からの諸課題を解決するために、取り組みを進めてきた各種復興事業の成果を示すものであり、計画(案)では具体的な事例を第2章2本町の現状(5)などに記載しています。</p> <p>「心の復興」は、お見込みの通りであり、資料一用語集に追記します。</p>

NO	意見	町の考え方
24	<p>・3つの戦略課題を克服するため3つの基本理念を据えています。この理念をどの様に導き出したか分かりにくく唐突な感じが否めませんので、その抽出過程を補足いただけるよう提案します。「山元町震災復興計画……未来に向かって新しい町づくりを進めていきます。」の記述は、町づくりの基本理念ではないでしょうか？左記に加えて戦略課題と3つの基本理念があり、重複感が否めないばかりか分かりづらいので整理されることを提案します。</p>	<p>第2編基本構想の第1章本文中に記載のとおり「まちづくりの戦略課題を重点的に克服するための3つの基本的な理念を据えて」まちづくりを推進することとしています。このため戦略課題1により基本理念を導き出しています。</p>
25	<p>・「課題1:移住・定住を促す町の魅力創出や生活利便性の向上が必要」を克服するため「【基本理念1】住んでみたい、ずっと住んでいたいと思える、元気で快適なまちづくり」を据えているが、同じことを情緒的に言いかえただけに思えるので整理されるよう提案します。</p>	<p>第2編基本構想の第1章本文中に記載のとおり「まちづくりの戦略課題を重点的に克服するための3つの基本的な理念を据えて」まちづくりを推進することとしています。このため戦略課題1により基本理念を導き出しています。</p>
26	<p>・「課題2:町民一人ひとりが安心して暮らせる生活環境づくりが必要」、「【基本理念2】ともに創造する、安全・安心なまちづくり」についても上記と同様。</p>	<p>第2編基本構想の第1章本文中に記載のとおり「まちづくりの戦略課題を重点的に克服するための3つの基本的な理念を据えて」まちづくりを推進することとしています。このため戦略課題2により基本理念を導き出しています。</p>
27	<p>・「課題3:町民や地域と連携した協働のまちづくりが必要」、「【基本理念3】つながりを大切にする、愛と誇りを育むまちづくり」についても上記と同様。</p>	<p>第2編基本構想の第1章本文中に記載のとおり「まちづくりの戦略課題を重点的に克服するための3つの基本的な理念を据えて」まちづくりを推進することとしています。このため戦略課題3により基本理念を導き出しています。</p>
28	<p>○第2章-2将来人口フレームについて ・人口減少の要因としては、社会減と自然減によるとしていますが、P11(5)-①では「平成28年度からは、新婚・子育て世帯に着目した定住推進事業等の効果により、転入者数が転出者数を上回る「社会増」が続いています。」との記述となっており整合が取れないので時点を平成27年(国勢調査)から最新のデータを加味して記載されることを提案します。</p>	<p>人口は国勢調査時点を基準としています。しかしながら平成28年度以降、住民基本台帳を基にすると特筆すべき事項として社会増の傾向が見られるため付記しています。</p>
29	<p>・現状を踏まえた将来目標人口を11,200人(2028年)とし、その前提を「本町将来人口独自推計にあたっての前提条件」として示していますが、前提条件の信頼性を高めるため本町の実績値等を示されることを提案します。とりわけ重要な「合計特殊出生率に換算の平成27年1.17⇒令和7年以降は1.2～1.3程度まで上昇させる。」とした根拠。例えば、子育て支援策等により現況1.1台⇒1.2～1.3とした根拠。何故そう見込めるのか？</p>	<p>「子育てするなら山元町」の実現に向け、「子育て拠点施設」の整備や、若者や子育て世代の、出会いから結婚・妊娠・出産・育児まで、そのライフステージに応じた切れ目ない支援を実施するなど、地域全体が協力し、若い世代・子育て世代にとって、住みやすく優しいまちづくりを目指すことにより、合計特殊出生率が上昇するものと見込んだものです。</p>
30	<p>○第3章 まちづくりの基本方針(施策の大綱)のP32【第6次山元町総合計画基本構想の構成】について ・この構成は分かり易いので、読み手がすんなり内容に入っていけるよう第1章町づくりの基本理念(P23)の前に位置づけることを提案します。</p>	<p>各項目を導き出すための各条件を段階を追って記載し、総じて【第6次山元町総合計画基本構想の構成】を掲載しております。目次に該当の項目を追記します。</p>
31	<p>○第3編第3章-2(2)生涯学習情報の提供と図書室の充実について ・情報提供と図書室の充実は評価しますが、古典や専門書等については亘理町、新地町等近隣市町村の図書室を利用せざるを得ませんので、一步進めて図書室の設置を提案します。交流人口を増やすためパークゴルフ場の設置も必要なのでしょうが、図書室設置の優先度が高いと考えています。</p>	<p>古典や専門書等の専門性が高い図書につきましては、宮城県図書館から貸出可能な図書については取り寄せを行うなどの方法もありますので、ご相談いただきながら図書室を充実していきたいと思えます。</p>
32	<p>65p (2)下水道処理区域外においては、浄化槽による汚水処理を推進します。 →現在下水道に接続されているが、新たに下水道処理区域外と区分され、接続からはずされてしまう区域等がありますか？</p>	<p>下水道を接続している区域において、現時点では下水道接続を外す計画はありません。</p>
33	<p>45p (8)地元企業と町内企業の使い分けを教えてください。</p>	<p>同じ内容を示しており、記載を修正します。</p>
34	<p>1. 防風林について 全編にわたって自然環境が作文のお題目に終わっています。1960年代以降、山元町の自然環境は損なわれ続けています。東日本大震災の津波によって平野部の自然環境は大きな打撃を受け、残っていた屋敷林、境界林の木立も復興事業によってすべて失われました。屋敷林、境界林は防風林および景観として平野部の自然環境に大きく寄与していました。農地の大規模化の中で新たな防風林の植林が必要とされています。</p>	<p>第3編第2章1農林水産業及び第5章1環境保全に記載のとおり、林業及び環境保全に取り組んで参ります。 また農地整備事業で整備している防風林帯は、復旧した農地(畑)において春先の強風により飛砂が発生し、復旧した水路の埋没や作物への影響が見受けられたことから、畑の利用に合わせた配置計画で実施しております。</p>
35	<p>2. 海岸、沼沢地について 自然環境における海岸および沼沢地の重要性が認識されていません。住民および外来者の海岸利用、沼沢地利用について全く考慮されていません。交流人口拡大の面からも海岸および沼沢地は大切な自然環境です。このような認識不足のために貴重な砂浜への山元沿岸風力発電導入を町が容認するような事態になっています。</p>	<p>第3編第5章1環境保全に記載のとおり取り組んでまいります。 海岸・沼沢地の自然環境の重要性に対する御意見については承知しました。住民及び来訪者の安全や利便性、広義での環境保全との関連性を見極めながら対応して参ります。</p>
36	<p>4. 西部山地の名称について 総合計画では阿武隈山地、国土利用計画では阿武隈高地としているので統一したほうが良い。どちらも間違いではないが、山元町の西部山地の名称としては違和感があります。亘理郡の山地は特異な地形であり、広義の阿武隈山地とは区別された名称があります。 ① 亘理丘陵(経済企画庁 土地分類図) ② 亘理地畷山地(経済企画庁 土地分類図付属資料) ③ 割山隆起帯(国土地理院 地質図) 西部山地の名称としては「亘理丘陵」が妥当と考えます。</p>	<p>第4次山元町国土利用計画の記述に基づき、「阿武隈高地に連なる丘陵地」等として統一して記載します。</p>